



# 沼津港の水産の動向

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

# 目次

- 沼津港水産動向のまとめ …4頁
- 漁業センサスによる動向整理
  - ・ 漁業経営体の状況 …7頁
  - ・ 年齢階層別漁業就業者数の推移 …8頁
  - ・ 自営業者の後継者の有無の推移 …9頁
  - ・ 保有漁船数の推移 …10頁
  - ・ 水産加工場の推移および主な加工種類 …11頁
  - ・ 冷凍・冷蔵工場の推移 …12頁
  - ・ 遊漁船案内業者数の推移 …13頁
- 漁協関連資料による動向整理
  - ・ 漁協別・正組合員数の推移 …15頁
  - ・ 漁協別・保有漁船数の推移 …16頁
  - ・ 漁協別・水揚げ量の推移 …17頁
  - ・ 漁協別・魚種別水揚げ量の状況 …18頁
- 魚市場関連資料による動向整理
  - ・ 静岡県内・市場位置図 …20頁
  - ・ 主要地方卸売市場の取扱数量・取扱金額 …21頁
  - ・ 沼津および競合魚市場の取扱数量・取扱金額の推移 …22頁
  - ・ 沼津魚市場・魚種別取扱高 …23頁

# 沼津港水産動向のまとめ

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

## 漁業センサスによる動向

### ◆海水面漁業の動向

- ▶ 沼津市の漁業経営体数が、1993年から2008年には約半数近くに減少する中であって、沼津地区は減少の割合が緩やかで、2008年は、1993年の約87%となっている。
- ▶ 沼津地区の漁業就業者数は、2003年まで緩やかに減少し、2003年は1993年の約70%弱の就業者数となっている。また、2008年は、非沿海市町村に居住する被雇用者も統計に含めたことから就業者数が増加している。
- ▶ 年齢階層別の就業状況は、沼津地区においては、29歳以下の就業者は、ほとんどいない。また、2003年から2008年にかけて、45歳～64歳、65歳以上の就業者数が大きく増加している。
- ▶ 沼津地区の自営業の後継者の状況は、1998年調査では後継者が全くいなかったが、2003年には約10%弱、2008年には約20%と大きく増加している。(2008年には被雇用者も調査対象に含めたことから、「後継者がある」と答えた割合は高くなっている。)
- ▶ 沼津地区は1993年から2008年にかけて、保有動力漁船数は30隻前後の変動で大きな変化はない。一方、船外機付漁船数は、17隻から3隻と大きく減少している。
- ▶ 営んだ漁業種類別経営体数の状況は、地引網の調査が2008年には行われていないが、2003年の結果を踏まえると、沼津地区は、沿岸イカ釣りや地引網漁を行っている経営体が多い。

### ◆水産加工・冷凍・冷蔵の動向

- ▶ 沼津市の中では、沼津および静浦において水産加工場が多く立地しているが、ともに1998年に比較して2008年はほぼ半減状態となっている。
- ▶ 2008年調査によれば、沼津地区の水産加工場は塩干品製造工場が、最も多く80%強となっている。

### ◆水産加工・冷凍・冷蔵の動向 (続き)

- ▶ 沼津地区における水産加工場の従業員数は減少傾向にあり、2008年は1998年(1356人)の約80%(1080人)となっている。
- ▶ 沼津における冷凍・冷蔵工場数は減少傾向にあり、2008年は1998年(23)の約78%(18)となっている。

### ◆遊漁利用の動向

- ▶ 遊漁船関連の調査は1998年および2003年に行われているが、沼津地区における遊漁船案内業者数は1998年から2003年にかけて、約40%の減少となっている。
- ▶ 沼津地区の過去1年間の遊漁者数は、1998年から2003年にかけて、大きく減少し、2003年は1998年の約28%となっている。

## 漁協関連資料による動向

- ▶ 我入道漁協をはじめ、沼津市内の各漁協の正組合員数や保有漁船数は、減少傾向にある。
- ▶ 各漁協とも水揚げ量は減少傾向にあり、我入道漁協の平成25年の水揚げ量は、平成17年の約36%となっている。

## 魚市場関連資料による動向

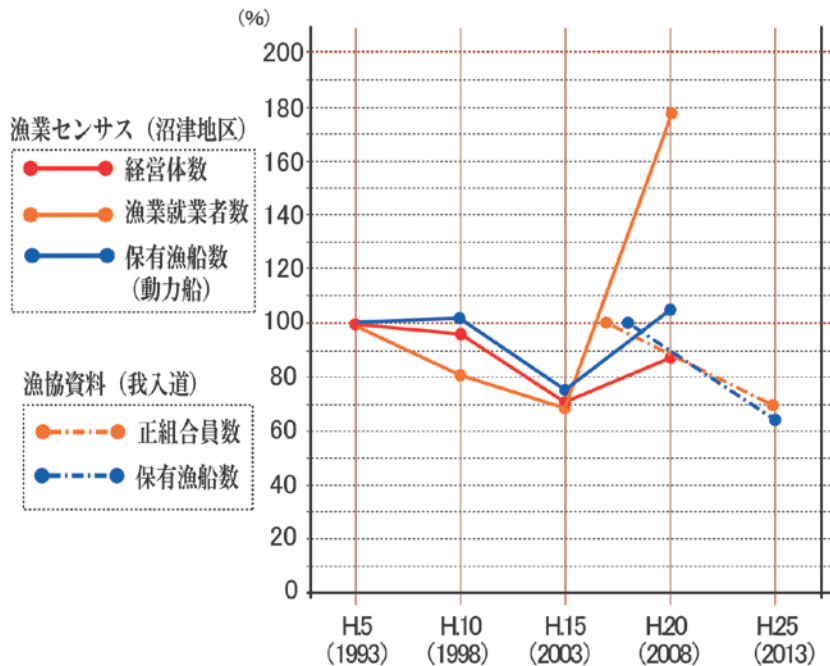
- ▶ 沼津魚市場は、県下で2位の地位にあり、1位の焼津魚市場には及ばないが、3位以下の魚市場と比較すると、取扱数量で2倍以上、取扱金額で5倍以上となっている。
- ▶ 沼津魚市場の取扱数量は、平成23年までは増加傾向であったが、その後減少に転じ、平成25年は平成19年の約88%、ピークの平成23年の約75%となっている。
- ▶ 沼津魚市場の取扱金額は年々減少しており、平成25年は平成19年の約76%の132億円となっている。

# 沼津港水産動向のまとめ (2)

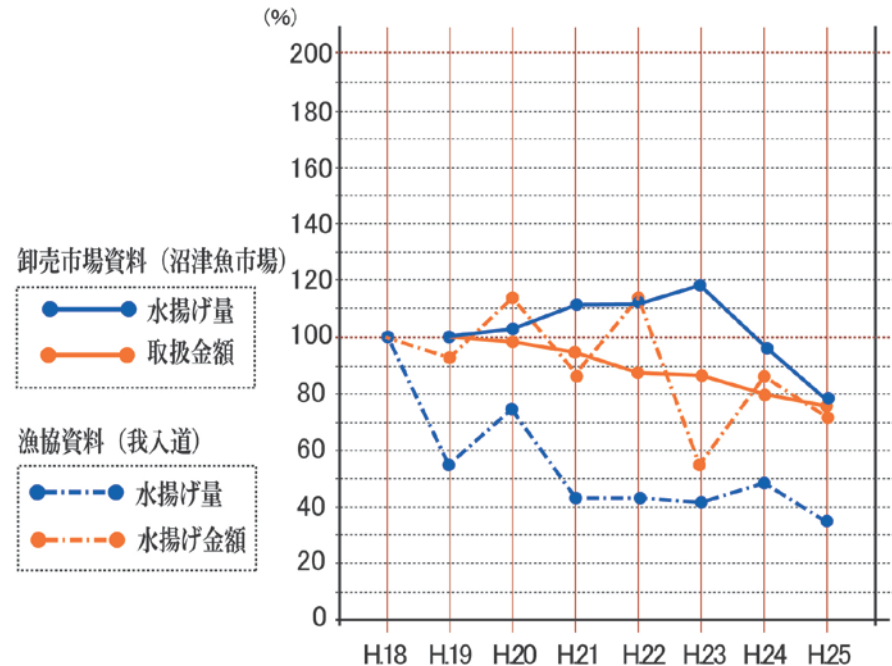
沼津地区の個々のデータに関する概要取りまとめ結果は、既述のとおりであるが、類似データの動向を比較し全体的な傾向把握を行った。

- 漁協データによれば正組合員数や保有漁船数は一貫して減少傾向にあるが、漁業センサスでは2008年に就業者数や経営体数、保有動力船数等が増加している。(2008年は従業員数は非沿海市町に居住する被雇用者も統計に含めたことから急増していると思われるが、他のデータも増加している。しかしながら、2013年センサスの沼津市の速報数値は、経営体数、就業者数、保有動力船数がすべて2003年比で約15%の減少傾向にあり、漁協データと同様の傾向となっている。)
- 魚市場データ、漁協データともに水揚げ量については増減があるものの減少傾向にあり、水揚げ金額も減少している。

## 漁業基盤に係るデータの推移



## 売り上げに係るデータの推移



(グラフは、比較を行いやすくするため、収集データの初年度数値を100%としてその後の数値を%で表示)

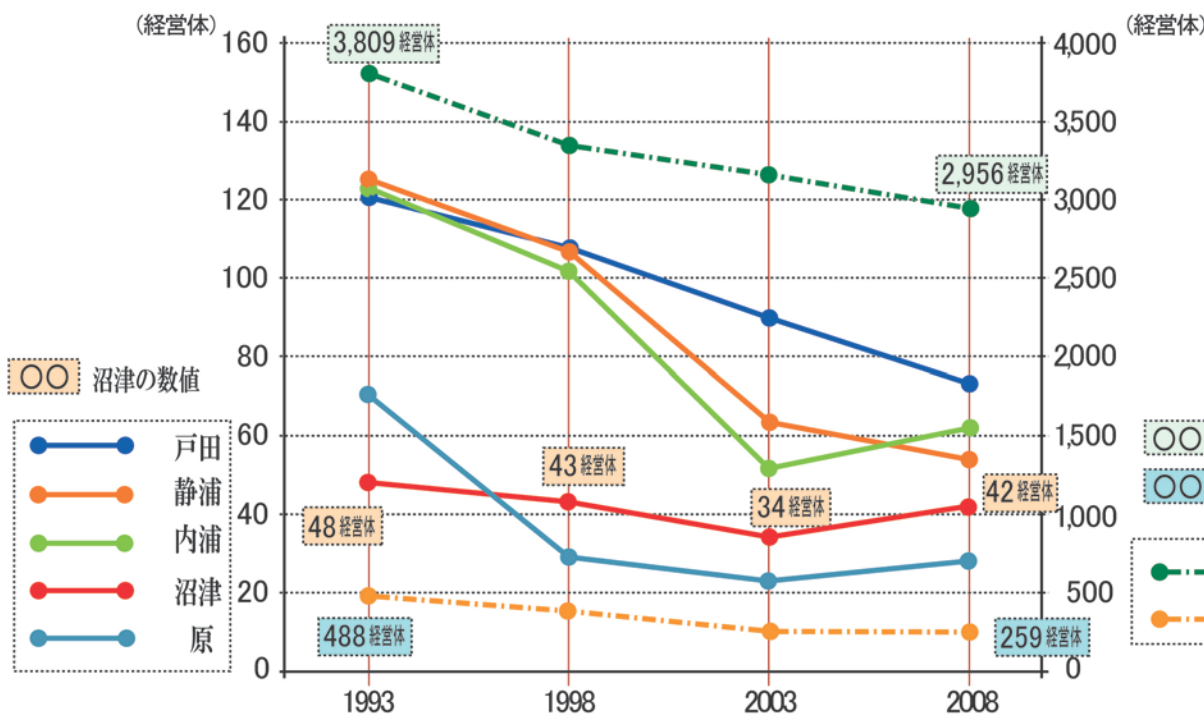
# 漁業センサスによる動向整理

- 沼津市の漁業経営体数は、1993年の488から2008年には約半数（53%）に近い259に減少し、2013年の速報値によればさらに約45%の219にまで減少している。（2008年比で2013年は約15%減少）
- 沼津地区は減少の割合が緩やかで、1993年の48から2003年には34に減少したが、2008年は42に回復し、1993年の約87%となっている。
- 戸田、内浦、静浦の減少傾向が大きいですが、沼津市の中では、2008年において沼津市全体の漁業経営体の約75%を占めている。
- 県全体では、2008年は1993年の約77%に減少している。

※沼津市と沼津はわかりにくいことから、漁業センサスでは地区という言葉を使用していないが、わかりにくいと思われるコメントや図については、沼津に「地区」を付記。

## 沼津市漁業経営体の推移

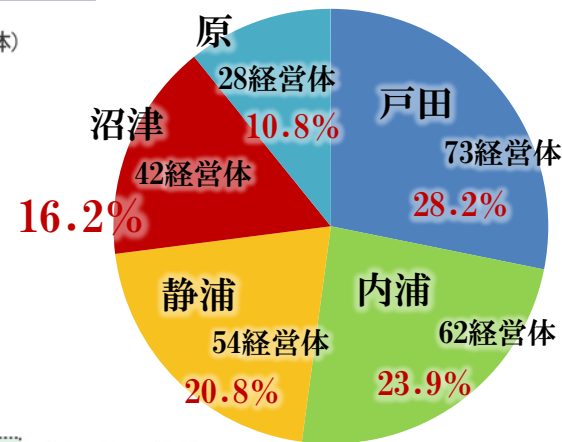
2013年センサス沼津市速報値：219経営体



## 沼津市漁業経営体 ・各地区の割合

2008年

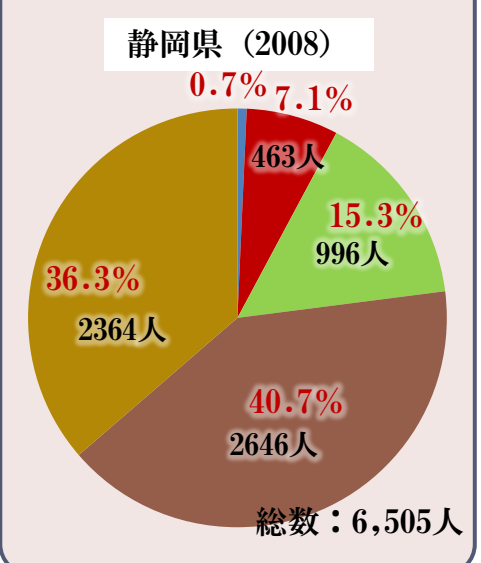
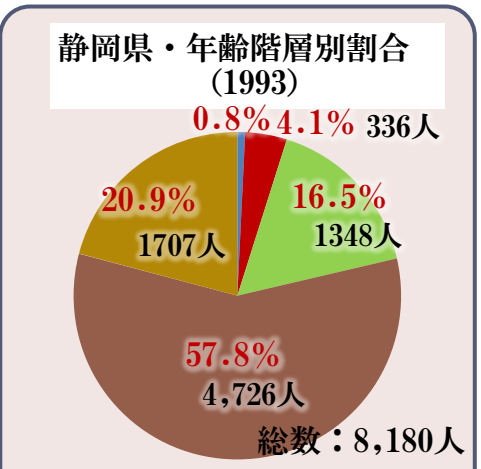
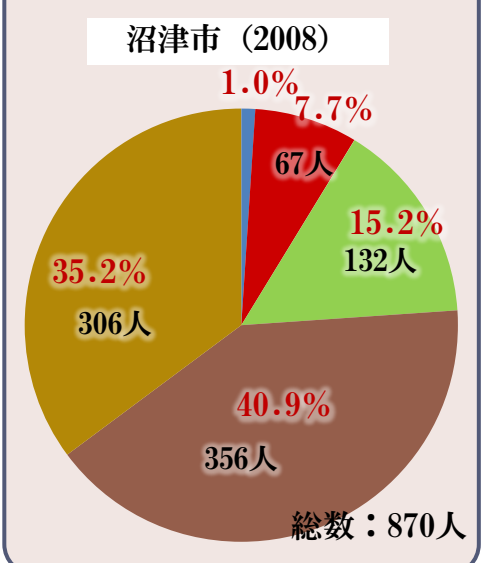
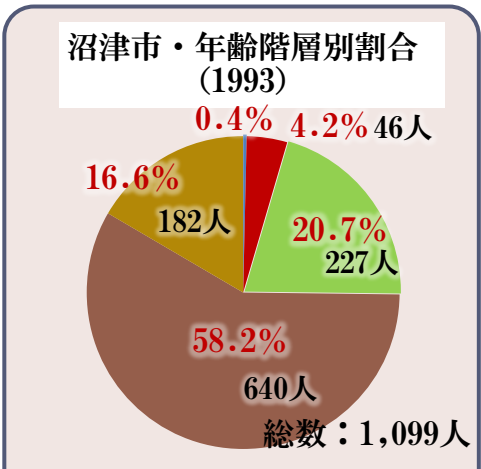
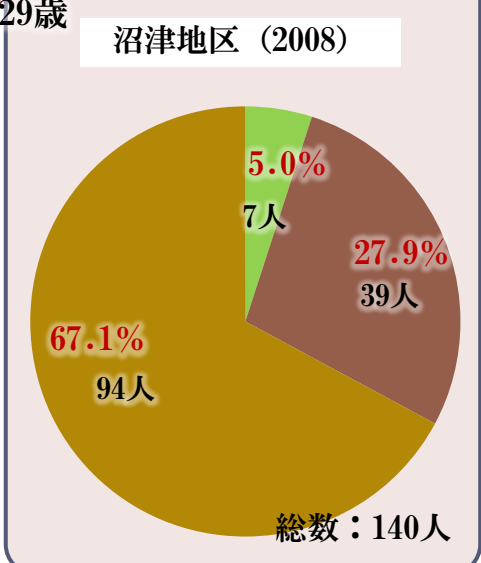
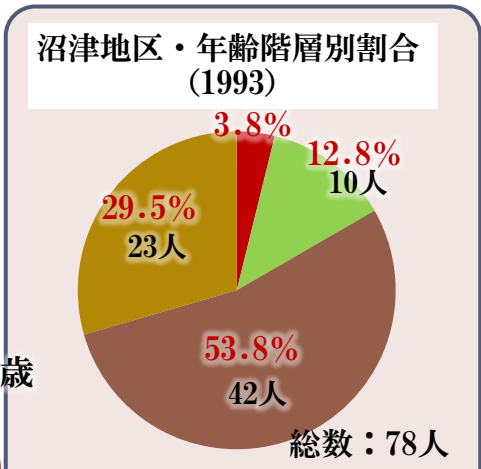
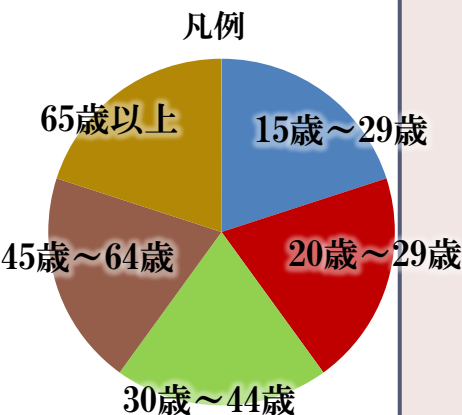
沼津市総数：259経営体



出典：「漁業センサス」を基に作成

# 年齢階層別漁業就業者数の推移

- 沼津地区は1993年から2008年にかけて、44歳以下の就業者の比率が減少し、45歳以上、特に65歳以上の就業者数が、実数、比率ともに大きく増加しており、この層の増加が沼津地区全体の増加につながっている。
- 沼津市全体では45歳以上の就業者の比率は、わずかに増加しただけで、殆ど変化はないが、45歳～64歳以下の就業者数が減少し、年月を経てスライドした形で65歳以上の就業者の比率が増加している。
- 静岡県全体もほぼ沼津市と同様の傾向を示している。



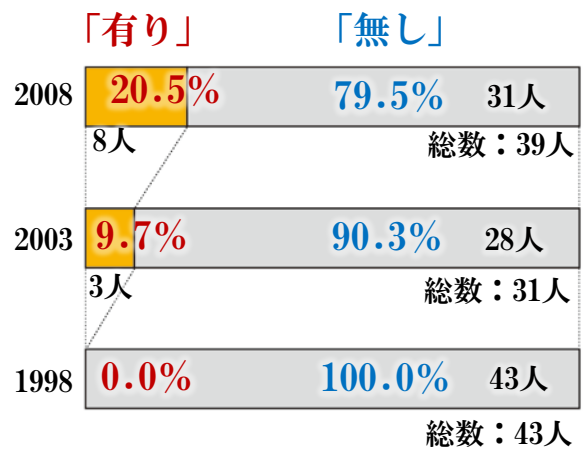
出典：「漁業センサス」を基に作成



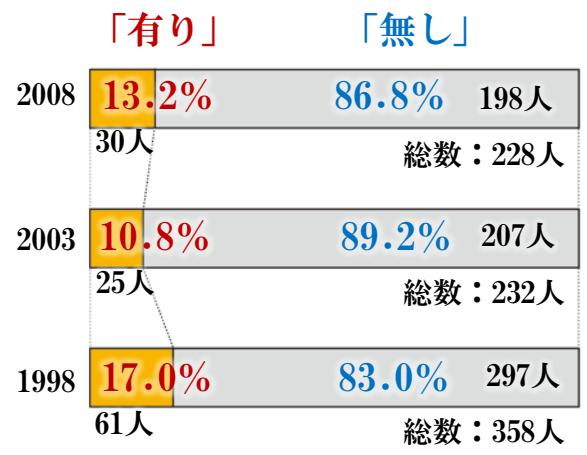
# 自営業者の後継者の有無の推移

- 2003年までは、後継者の範囲を自営業者の世帯員に限定していたが、2008年には被雇用者も対象としたことから、「後継者がある」と答えた割合は高くなっている。
- 沼津地区は1998年調査では後継者が全くいなかったが、2003年には約10%弱、2008年には約20%と後継者は大きく増加している。
- 沼津市全体では、1998年の17.0%から、2003年には10.8%と1998年の約60%まで減少したが2008年は若干増加している。静岡県もほぼ同様の傾向を示している。
- 世帯員の後継者に限定した2003年調査によれば沼津地区や沼津市、静岡県では概ね10%前後の後継者がいると判断できる。

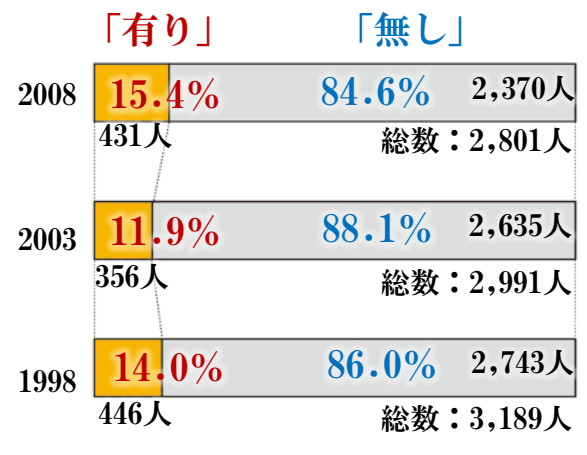
## 沼津地区



## 沼津市



## 静岡県



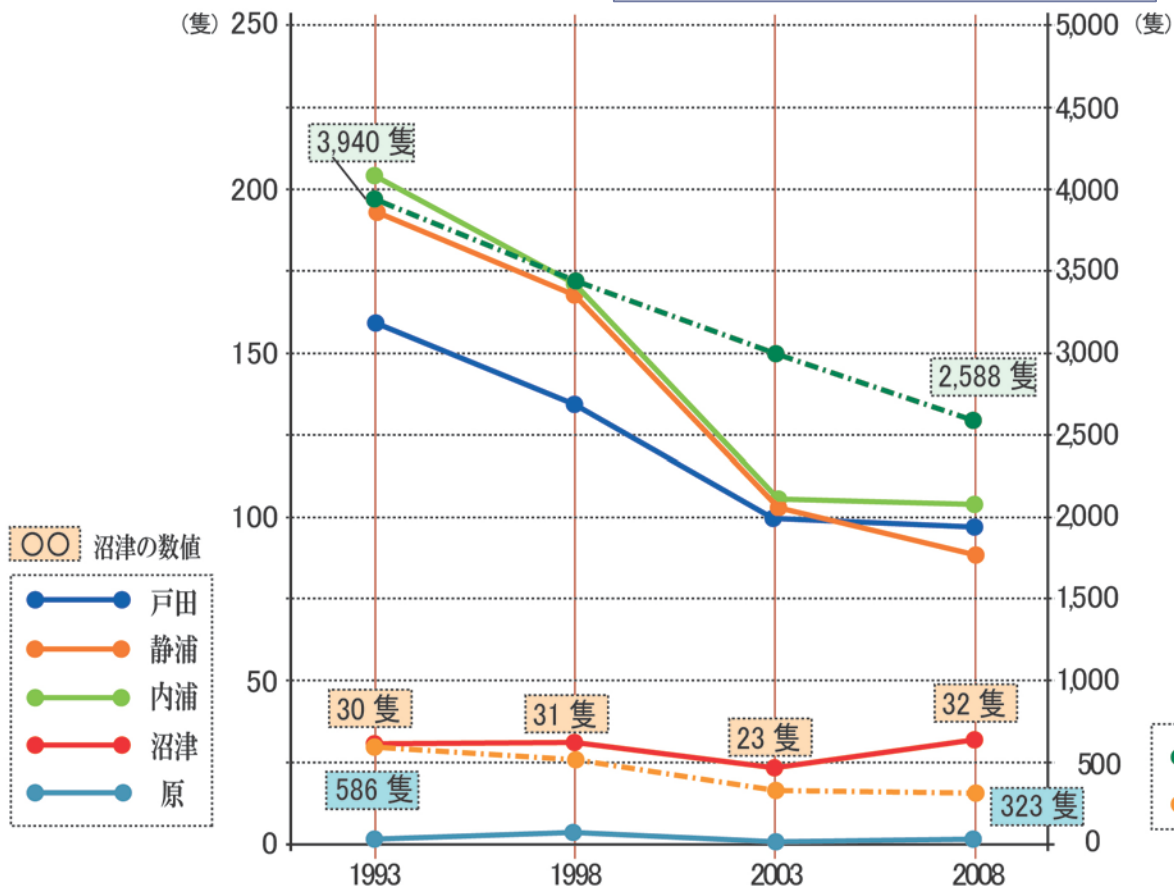
(1993年の漁業センサスは後継者の有無について調査を行っていない。)

# 保有漁船数の推移（動力漁船）

- 沼津地区は1993年から2008年にかけて、保有動力漁船数は30隻前後の変動で大きな変化はない。
- 戸田、静浦、内浦は1993年から2003年にかけて大きく減少している。原地区は殆ど動力漁船を有していない。
- 沼津市は減少傾向にあり、1993年保有数586隻に対して、2008年は約55%にまで減少し、2013年の速報値によればさらに減少（1993年の約47%・273隻）している。（2008年比では、約15%減少）
- 県全体も減少傾向にあり、2008年は1993年の約66%に減少している。

## 保有漁船数（動力漁船）の推移

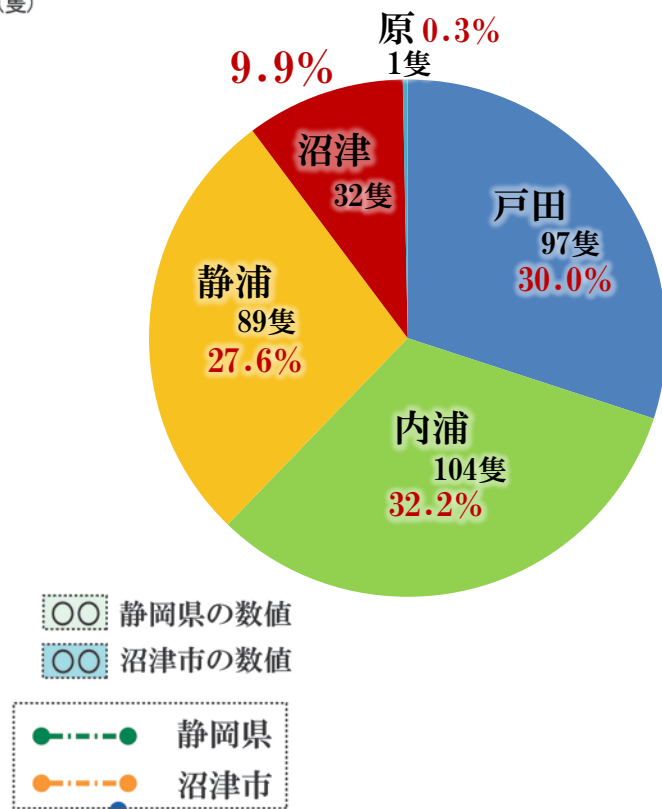
2013年センサス沼津市速報値：273隻



## 保有漁船数（動力漁船）

・各地区の割合

沼津市総数：323隻 2008年



出典：「漁業センサス」を基に作成

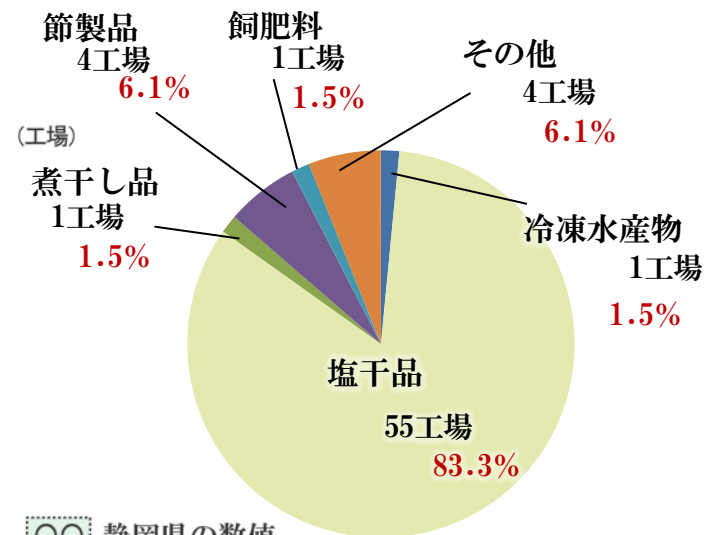
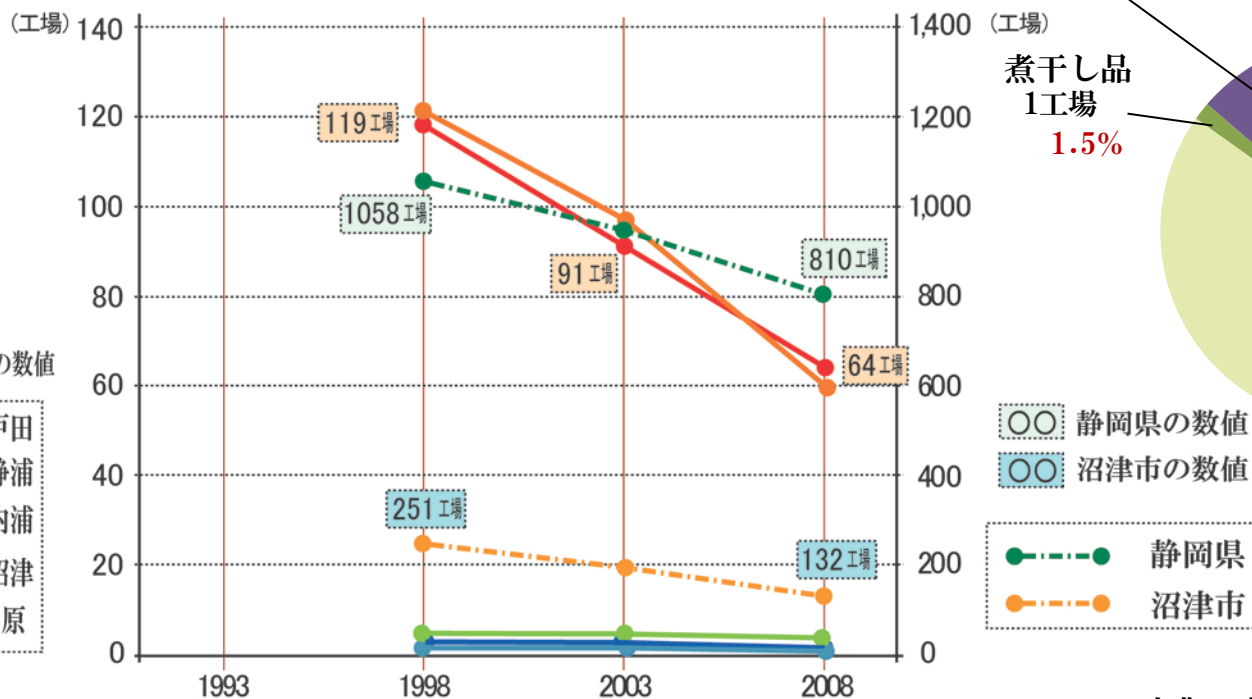
# 水産加工場の推移および主な加工種類

- 沼津市の中では、沼津地区および静浦において水産加工場が多く立地し、戸田、内浦、原は殆ど工場が立地していない。
- 沼津地区および静浦ともに1998年に比較して2008年はほぼ半減状態となっている。
- 2008年調査によれば、沼津地区の水産加工場は塩干品製造工場が、最も多く80%強となっている。  
(円グラフ表示を行っていないが、静浦も同様)

## 主な水産加工場の種類別割合

沼津地区 2008年 沼津地区総数：66工場

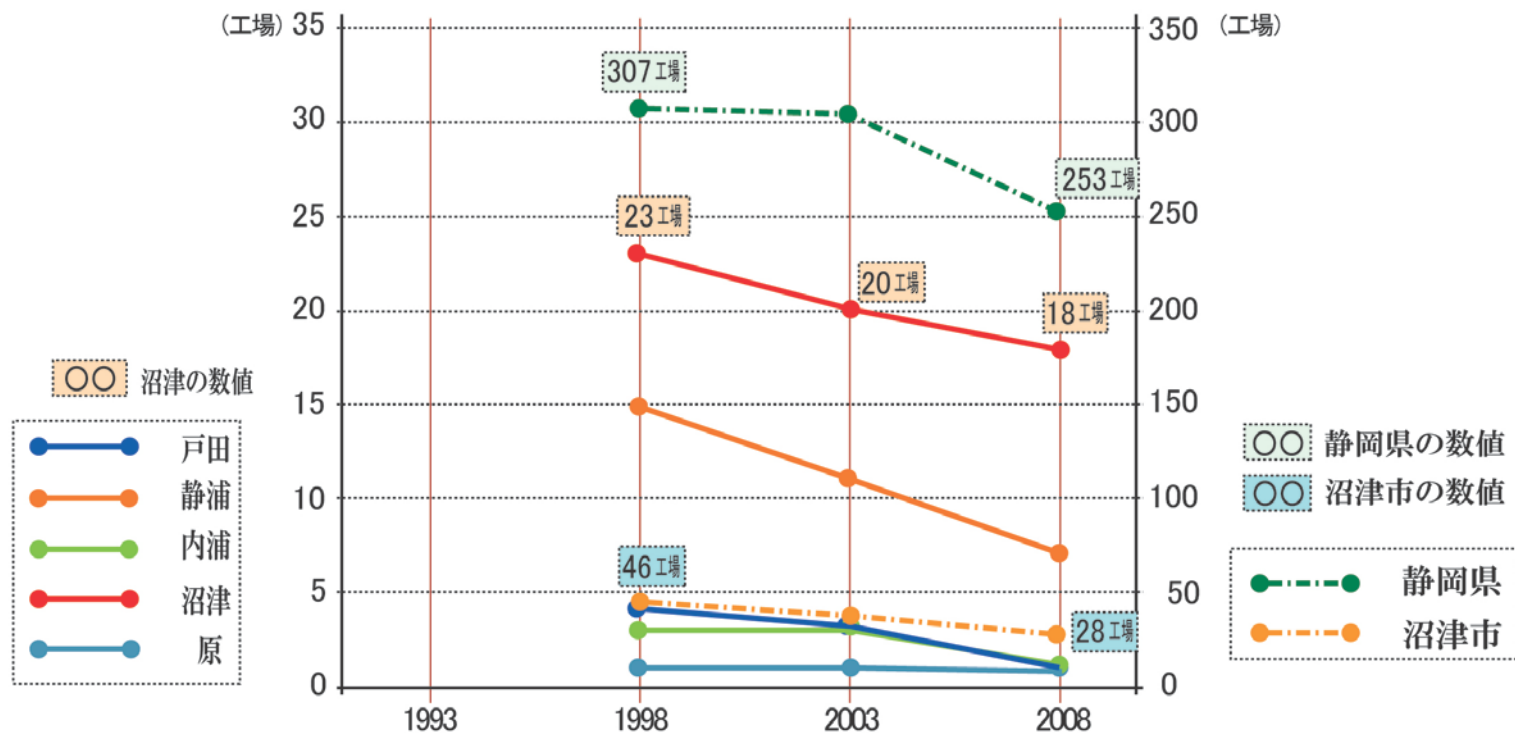
### 水産加工場の推移



沼津地区の円グラフの工場数と折れ線グラフの工場数が異なるのは、折れ線グラフの工場数が実数のため。

- 沼津における冷凍・冷蔵工場数は減少傾向にあり、2008年は1998年（23工場）の約78%（18工場）となっている。
- 沼津市も沼津同様減少傾向にあり、2008年は1998年の約60%となっている。
- 戸田、内浦、原は工場数が少ない。
- 静岡県全体では、1998年から2003年にかけては、ほぼ横ばい状態であったが、2003年から、2008年にかけて急激に減少し、1998年の約82%となっている。

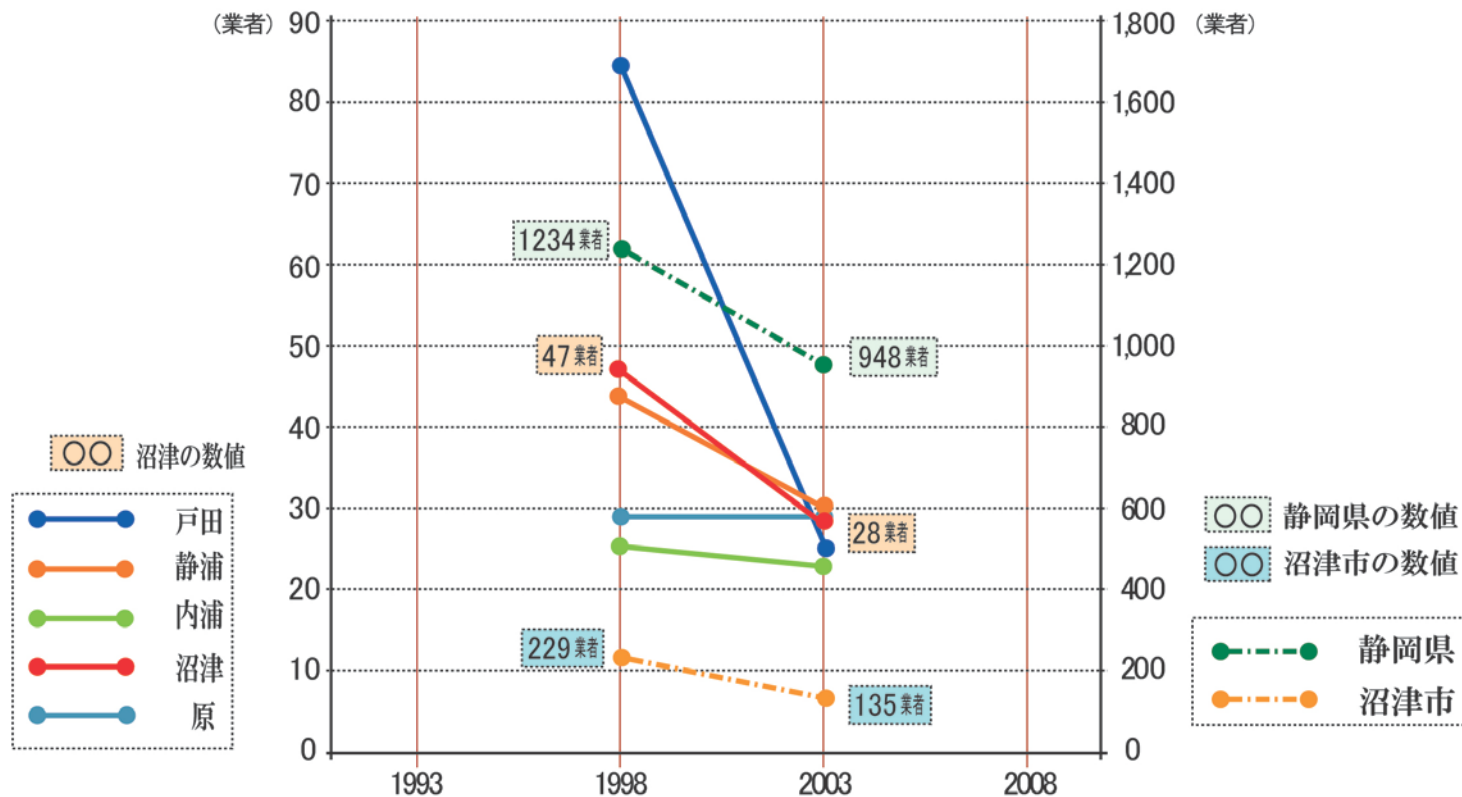
## 冷凍・冷蔵工場数の推移



# 遊漁船案内業者数の推移

- 遊漁船関連の調査は1998年および2003年に行われているが、遊漁船案内業者数は、横ばいの原、微減の内浦を除いて、他は大きく減少している。
- 沼津地区は1998年から2003年にかけて、約40%の減少となっている。
- 沼津市は2003年に1998年の約60%となり、同様に静岡県は約77%となっている。

## 遊漁船案内業者数の推移

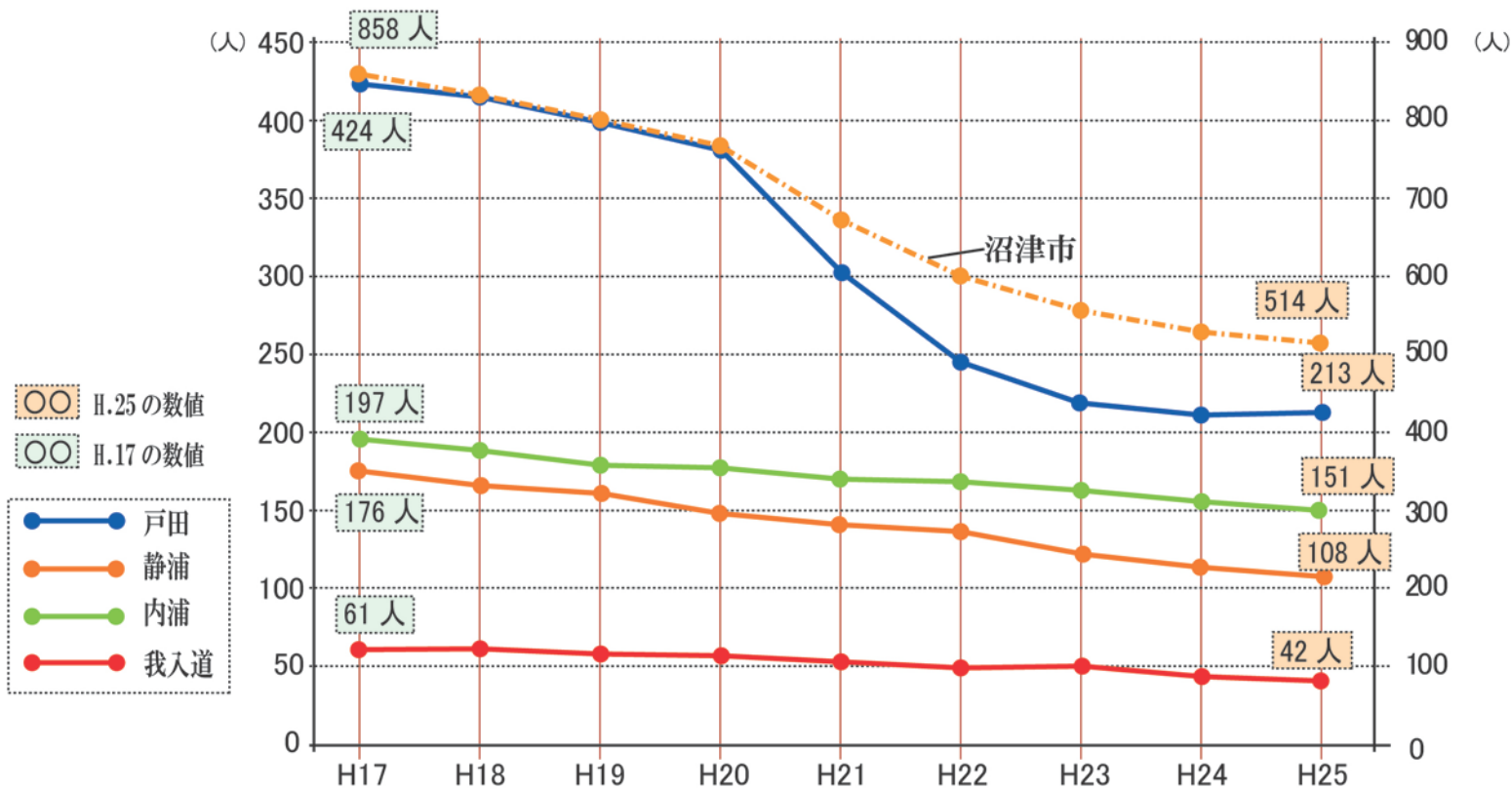


# 漁協関連資料による動向整理

# 漁協別・正組合員数の推移

- 正組合員数は各漁協とも減少傾向にあり、特に戸田は平成17年度から平成25年度にかけて半減状態となっている。
- 我入道は平成25年度は平成17年度の約69%となっており、沼津市全体では同期間で約40%減少し、平成25年度は平成17年度の約60%の正組合員数となっている。

## 漁協別正組合員数の推移



出典：沼津市提供資料を基に作成

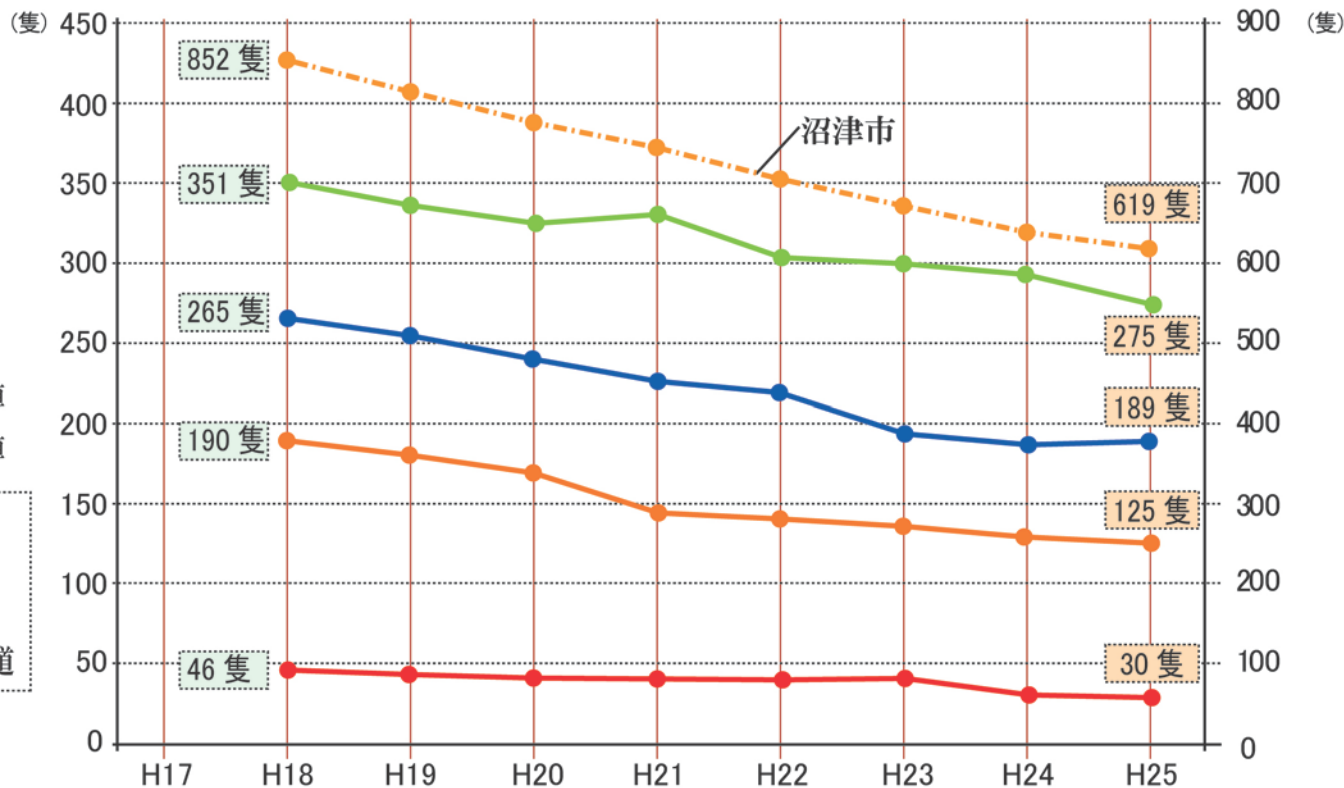
# 漁協別・保有漁船数の推移

- 漁船保有数は各漁協とも減少傾向にあり、沼津市全体（4漁協合計）では、平成18年度に比較して平成25年度は約73%にまで減少している。
- 我入道の平成25年度は、平成17年度の約66%となっている。
- 最も減少率の低い漁協は内浦で、平成25年度は、平成17年度の約78%となっている。

## 漁協別・保有漁船数の推移

H.25/H.18の割合

	H18	H25	H25/H18
戸田	265	189	71.3%
内浦	351	275	78.3%
静浦	190	125	65.8%
我入道	46	30	65.2%
計	852	619	72.7%

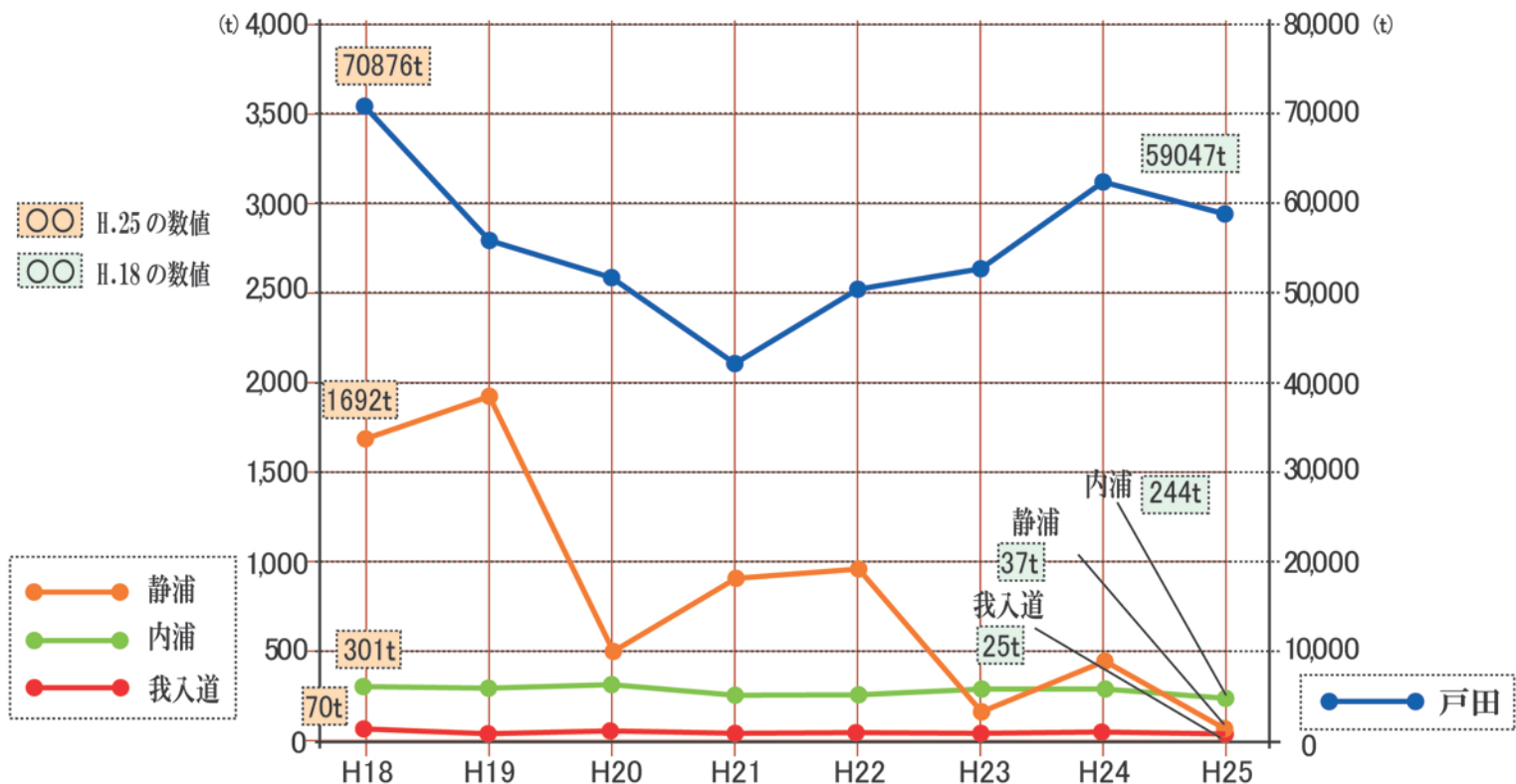




# 漁協別・水揚げ量の推移

- 各漁協とも水揚げ量は減少傾向にあり、特に静浦漁協の減少は激しく、平成25年度は、平成17年度の約1/50 (2%) となっている。
- 我入道の平成25年度は、平成17年度の約36%となっている。
- 最も減少率の低い漁協は内浦で、平成25年度は、平成17年度の約81%となっている。

## 漁協別・水揚げ量の推移



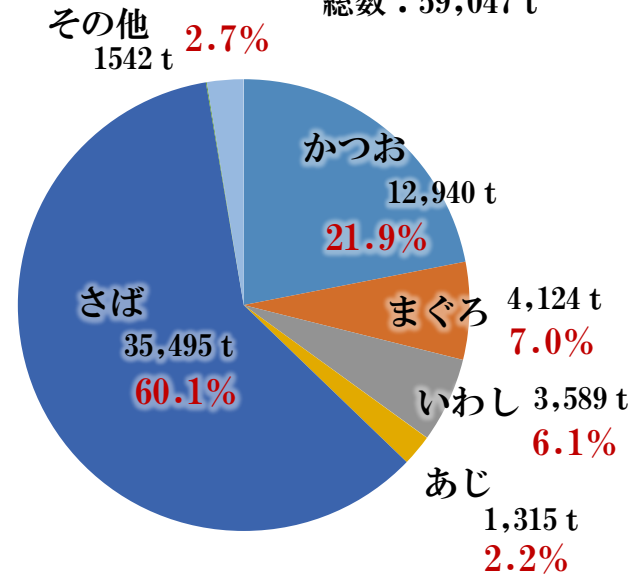
出典：沼津市提供資料を基に作成

# 漁協別・魚種別水揚げ量の状況

- 各漁協により水揚げされる魚種に特徴が見られ、我入道漁協は「たち・いか・むつ」が100%で、静浦漁協は「しらす」「かたくちいわし」が多く、特に「しらす」が80%近くを占める。また内浦漁協は「あじ」「たい」の水揚げが多い。
- 他漁協に比較して格段に水揚げ量の多い戸田漁協は魚種に富んでいるが、「さば」の水揚げ量が多く約60%を占め、次いで「かつお」が20%強となっている。

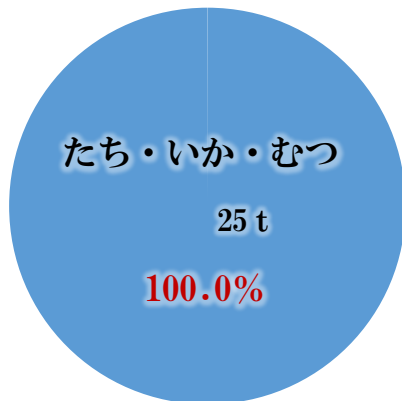
戸田漁協

総数：59,047 t



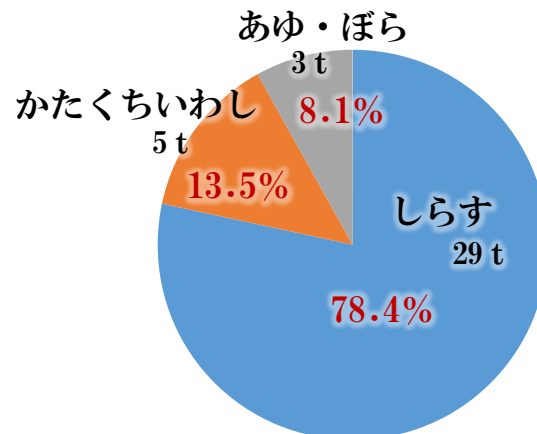
我入道漁協

総数：25 t



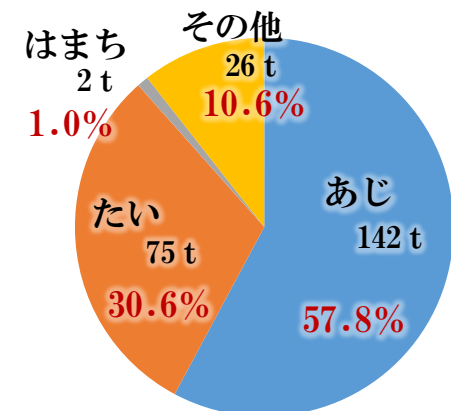
静浦漁協

総数：37 t



内浦漁協

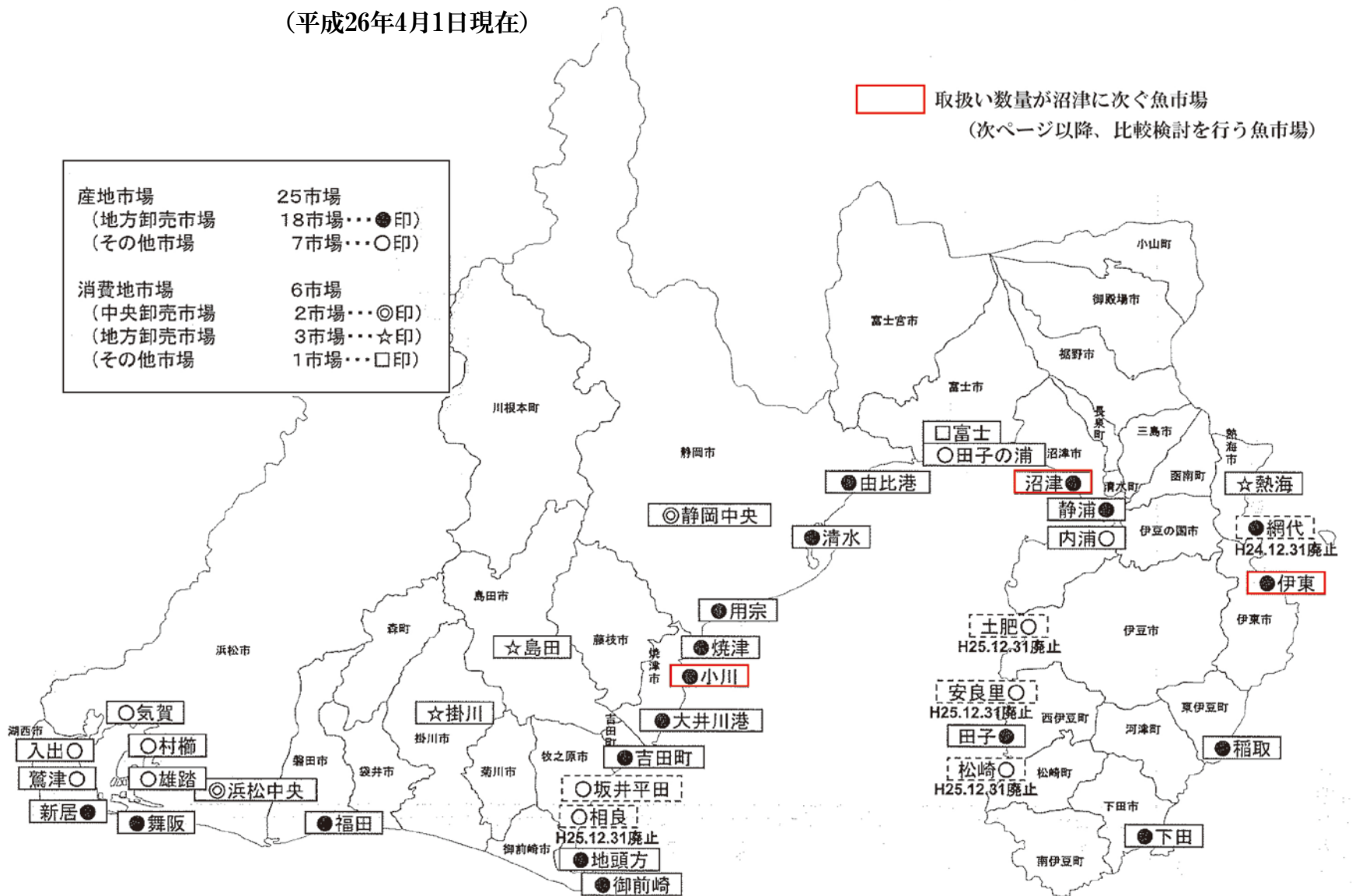
総数：246 t



# 魚市場関連資料による動向整理

# 静岡県内・市場位置図

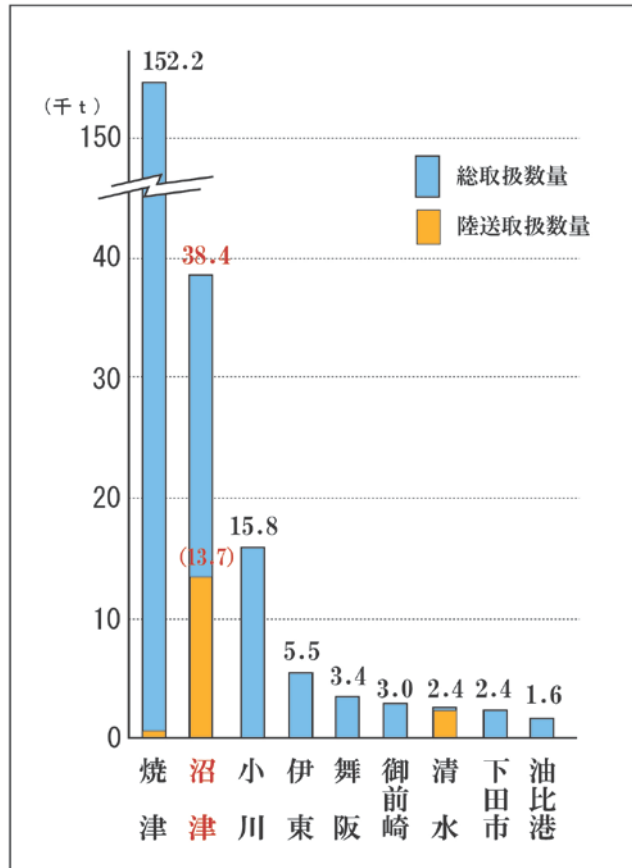
(平成26年4月1日現在)



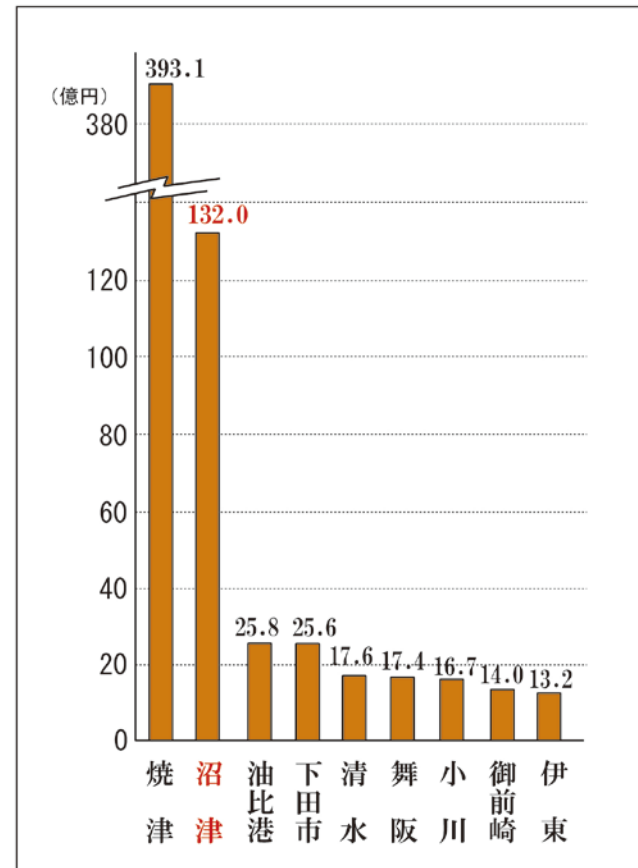
# 主要地方卸売市場の取扱数量・取扱金額

- 焼津魚市場が圧倒的に取扱数量、取扱金額ともに多く、2位の沼津魚市場の取扱数量で約4倍、取扱金額で約3倍となっている。
- 3位以下の魚市場と比較すると、沼津魚市場は取扱数量で2倍以上、取扱金額で5倍以上となっており、3位以下の市場に対して相当、差をつけた形となっている。
- また、沼津魚市場は、陸送品の取扱数量が多く、沼津魚市場の取扱総量の約36%を占める。

取扱数量

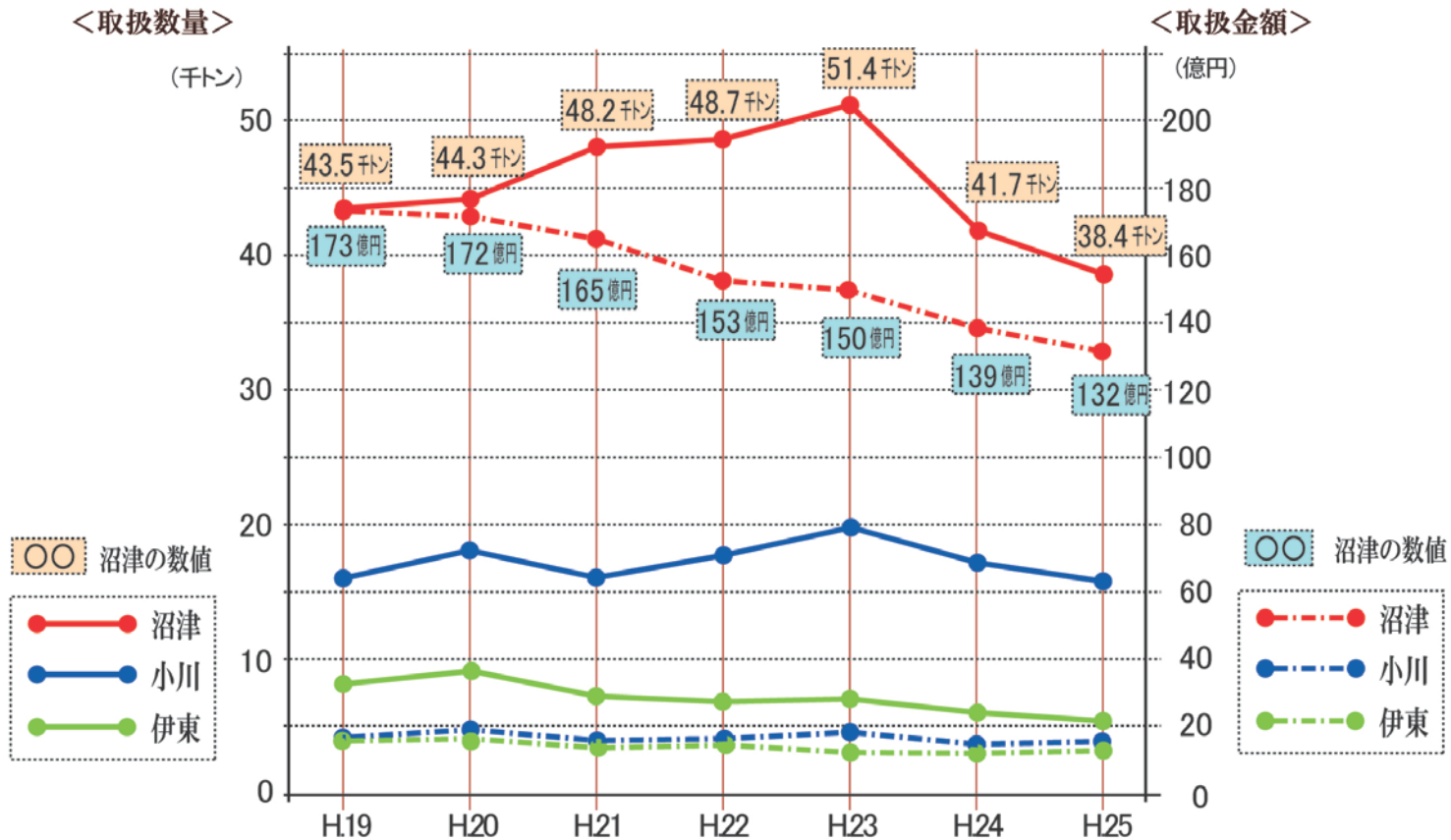


取扱金額



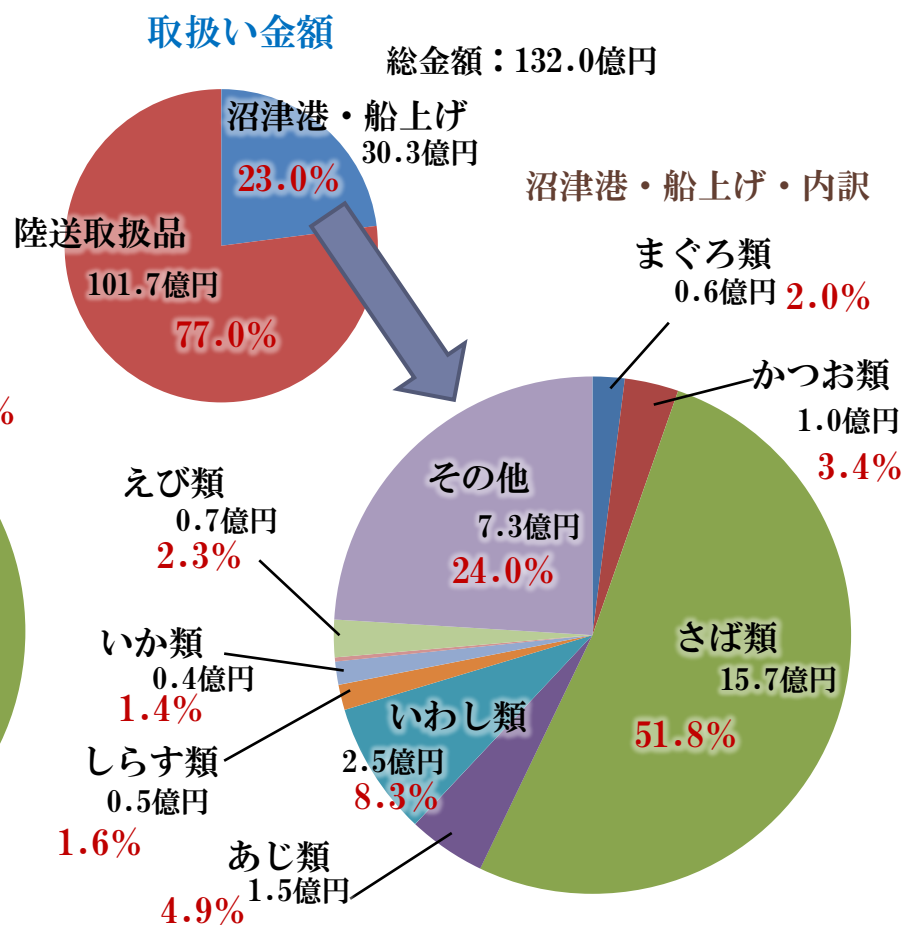
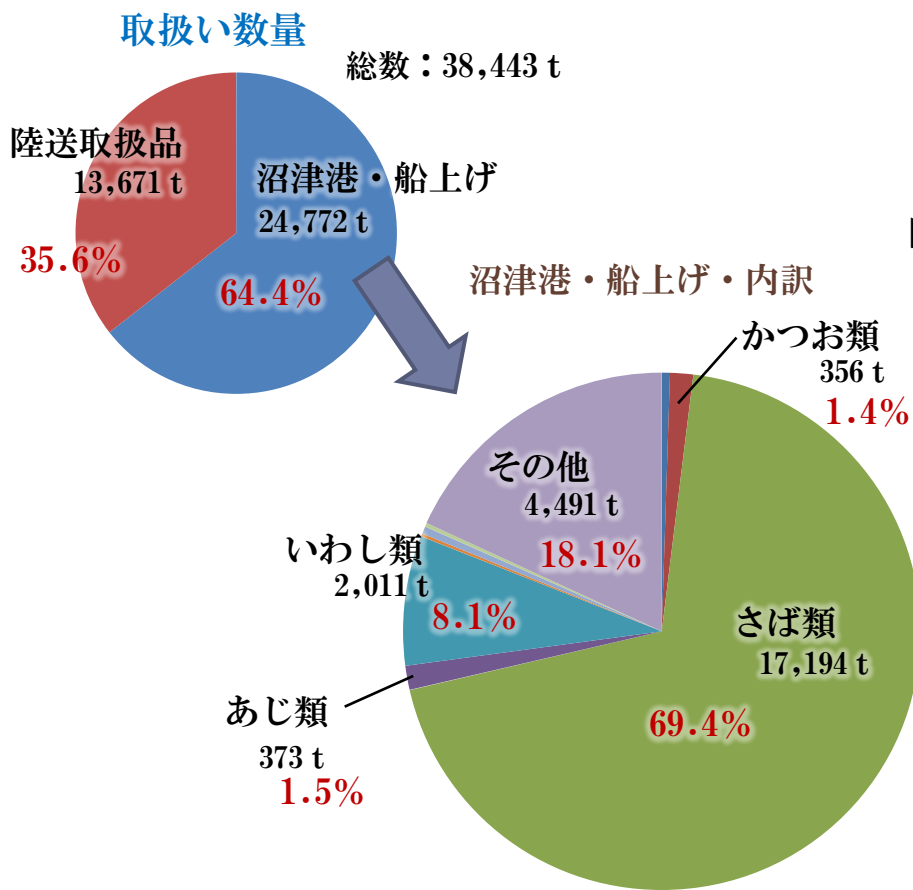
# 沼津および競合卸売市場の取扱数量・取扱金額の推移

- 沼津魚市場の取扱数量は、平成23年までは増加傾向であったが、その後減少に転じ、平成25年は平成19年の約88%、ピークの平成23年の約75%となっている。
- 一方、沼津魚市場の取扱金額は年々減少しており、平成25年は平成19年の約76%の132億円となっている。
- 小川魚市場は増減はあるものの取扱数量、取扱金額は横ばい状況であり、伊東魚市場は取扱数量は微減状態で、取扱金額は横ばいとなっている。



# 沼津魚市場・魚種別取扱高 (平成25年)

- 平成25年の沼津魚市場の取扱数量は、陸送取扱品が約35%、沼津港での船上げが約65%となっており、船上げ総量の内の約70%が「さば類」となっている。
- 一方、沼津魚市場の取扱金額は、陸送取扱品が77%を占め、沼津港の船上げが23%となっており、取扱金額的には陸送取扱品の比重が非常に大きい。
- 沼津港の船上げの取扱金額・総額の内、「さば類」が占める割合が最も多く約52%となっている。



# 参考資料



2008漁業センサス	
漁業経営体	過去1年間に利潤または生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕または養殖の事業を行った世帯または事業所をいう。 ただし、過去1年間ににおける漁業の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除く。
漁業就業者	満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した者をいう。 (2003年までは、沿海市区町村の漁業を自営していないで、雇われて漁業に従事した世帯について調査(「漁業従事者世帯調査」)を行っていたが、2008年は世帯調査を廃止し、雇い主である漁業経営体の側から非沿海市区町村に居住しているものを含めて調査を行ったことから、2008年調査には非沿海市区町村に居住している漁業雇われ者が新たにくわえられた数値となっている。)
海上作業従事者	11月1日現在の海上作業従事者(2003年調査では、最盛期の海上作業従事者。調査年によって異なる。)
年齢階層別漁業就業者	漁業センサスでは、15歳～74歳までの5歳区分ごと並びに75歳以上に区分して集計を行っている。今回の作業ではライフステージ(未成年、青年、壮年・・・)に合わせて再集計を行いグラフ化
自営業の後継者	満15歳以上で過去1年間に漁業に従事した者で、将来自営業の経営主になる予定のものをいう。 (後継者を幅広くとらえるため、2008年センサスではこれまでの個人経営体の世帯員に限定した後継者だけでなく、自営事業に限らず被雇用者も含めて集計されている。その結果、2008年は2003年より数値が大きくなっているケースが多い。)
動力漁船	推進機関を船体に固定した漁船をいう。なお、船内外機船(船内にエンジンを設置し、船外に推進ユニット(プロペラ等)を設置した漁船)については動力漁船とする。
船外機付漁船	無動力船に船外機(取り外しができる推進機関)を付けた漁船をいい、複数の無動力船に1台の船外機を交互につけて使用する場合には、そのうちの1隻を船外機付漁船、他を無動力漁船とする。
営んだ漁業種類	漁業経営体が過去1年間に営んだすべての漁業種類をいう。
水産加工場	販売を目的として過去1年間に水産動植物を他から購入して加工製造を行った事業所および原料が自家製産物であっても加工製造するための作業場または工場と認められるものを有し、その製造活動に専従の従事者を使用し、加工製造を行った事業所をいう。
冷凍・冷蔵工場	陸上において主機10馬力(7.5kw)以上の製氷・冷蔵・冷凍施設を有し、過去1年間に水産物(のり冷凍網を除く)を凍結し、または低温で貯蔵した事業所をいう。
遊漁案内業者	(2008年は調査を廃止。下記は2003年漁業センサスの用語定義) 漁業者、漁業者以外に関わらず遊漁者から料金を徴収して漁船、遊漁案内船等を使用して遊漁者を漁場に案内する業務(船釣り、瀬渡し等)や潮干狩り、観光地ひき網、磯釣り等の業務を行うものをいう。
遊漁者	(2008年は調査を廃止。下記は2003年漁業センサスの用語定義) レクリエーションを目的として、海面において水産動植物を採捕する者の内、遊漁案内業者を利用した者をいう。